

安全データシート

1. 化学品および会社情報

製品名	人肌®のゲル原液 発泡 硬化剤
会社名	(株)エクシール
住所	岐阜県美濃市大矢田277-1
担当部署	品質保証課
電話番号	0575-33-0872
緊急連絡先	同上
FAX番号	0575-35-1590
整理番号	320002

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外
可燃性・引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む)	分類対象外
エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性物質	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性化学品	分類対象外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	区分外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分4
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖毒性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない
吸引力呼吸器有害性	区分外
水生環境有害性(急性)	分類できない
水生環境有害性(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

上記で記載がない危険有害性は、「分類対象外」か「分類できない」。

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
吸引すると有害
皮膚刺激
眼刺激
吸入するとアレルギー、呼吸困難を起こすおそれ
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
呼吸刺激性を起こすおそれ

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に安全データシート(SDS)を入手すること。
- ・安全データシート(SDS)を熟読し理解するまで取り扱わないこと。
- ・容器を密閉しておくこと。(湿気厳禁)
- ・可燃性があるので、火気に注意すること。
- ・呼吸用保護具、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用する。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・屋外又は換気の良い区域でのみ使用する。
- ・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
- ・取扱い後はよく手を洗う。
- ・汚染された作業衣を作業場から出さない。
- ・イソシアネートと反応する水等との接触を避ける。

【救急処置】

- ・眼に入った場合は、水で数分間十分に洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗う。

- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。
- ・飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

- ・皮膚についた場合: 水と石鹸でよく洗う。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
- ・汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯する。
- ・気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受ける。
- ・火災時には、粉末、炭酸ガス又は泡消火器で初期消火にあたり、火災が広がった時は大量の噴霧水で消化する。
- ・漏出した場合は漏出物を回収すること。
- ・暴露又はその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受ける。

【保管】

- ・容器を密閉して換気の良いところで施錠して保管する。

【廃棄】

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名 MDI系イソシアネート末端ウレタンポリマー

成分	官報公示 整理番号	CAS No.	含有量(%)
ウレタンプレポリマー	非開示	非開示	71.2
4,4ジフェニルメタンジイソシアネート(MDI)	4-118	101-68-8	28.6
その他添加剤	非開示	非開示	0.2

※代表値であり、規格値ではありません。

4. 応急措置

目に入った場合	直ちに清浄な流水で15分以上洗眼すること、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
皮膚または髪に付着した場合	目の刺激が続く場合は、速やかに医師の診断/手当を受けること。 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激または発疹が生じた場合、速やかに医師の診断/手当を受けること。
吸入した場合	呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 必要な場合、衣服を緩めて人工呼吸を行う。 呼吸に関する症状が出たとき、気分が悪いときには速やかに医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	口を良くすすぎ、速やかに医師の診断を受けること。 無理に吐かせないこと。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 また窒息の恐れがあるため吐かせてはならない。
暴露又は暴露の 懸念がある場合 応急措置をする者の保護	気分が悪い場合、速やかに医師の診断/手当を受けること。 保護手袋、保護眼鏡を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	棒状の水の使用は火災を拡大させ危険な場合がある。
特定の消火方法	危険なくできるときは、液体を除去し、周囲の可燃物を除去する。 初期の火災には粉末、二酸化炭素、泡消火器を用いる。火災が広がったら、大量の噴霧水をかける。消火は風上から行う。 大規模火災の時は、泡を使用して空気を遮断すると有効である。
消火を行う者の保護	自給式呼吸器、保護衣服等の保護具を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立入りを禁止する。漏出時の処理を行う際には、必ず保護手袋、保護眼鏡、自給式呼吸器等を着用する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項	排水溝に流さない。流出した製品が河川等に排出され、環境への悪影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の 方法及び機材	大量漏洩時には、できるだけ液体を空容器に回収する。この際、着火源となるバキュームポンプを使用してはならない。こぼれた場所を十分に水洗いする。但し、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを取り除くとともに消火剤を準備する。 火花を発生しない防爆型の安全な機器及び用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策	危険物取扱所で取り扱う。 局所排気装置を設けた場所で、保護眼鏡、有機ガス用防毒マスク、
--------------	--

安全取扱い注意事項	保護衣、耐油性ゴム手袋等の保護具を着用する。 静電気対策のために、装置、機器等の設置を確実に行う。電気機器、換気装置、照明機器、工具は防爆型のものを用いる。 火気注意。
接触回避	保護眼鏡、有機ガス用防毒マスク、保護衣、耐油性ゴム手袋等の保護具を着用する。揮発成分(蒸気)を吸入しないこと。 皮膚に触れたり眼に入らないように注意する。 水、アルコール、アミン、カルボン酸等と反応するので接触をさせないように取り扱うこと。
保管	
安全な保管条件	危険物貯蔵所に保管する。容器は密栓し、乾燥した冷暗所に保管する。水と反応して二酸化炭素を発生するので、一度開缶した容器は乾燥窒素(または乾燥空気)で置換する。換気の良い場所に保管する。 火気注意。
安全な容器包装材料	吸湿混入を防止するため、さびやすい容器を避ける。

8. 暴露防止措置及び保護措置

設備対策	室内の取扱いは、発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	
日本産業衛生学会	TWA0.005ppm (HDI) (2012)
ACGIH(米国産業衛生専門家会議)	TWA0.005ppm (HDI) (2012)
保護具	
呼吸器の保護具	自給式呼吸器、エアーラインマスク、有機ガス用防毒マスク
手の保護具	耐油性保護手袋
目の保護具	ゴーグル、保護眼鏡、防災面等
皮膚及び身体の保護具	耐油性保護衣服、耐油性保護長靴、耐油性前掛け等

9. 物理的及び化学的性質

外観	液体
色	無色透明
臭い	微臭
pH	データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	データなし
融点・凝固点	データなし
引火点	235℃以上(開放式)
発火点	データなし
爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(または密度)	約1.0(25℃)
溶解性	
水	不溶
その他の溶媒	芳香族炭化水素類、エステル類、ケトン類に可溶。
オクタノール/水分配係数	データなし
分解温度	データなし
液粘度	55～110mPa.s(25℃)

10. 安定性及び反応性

安定性	常温常圧の条件では化学的に安定。
危険有害反応可能性	水、アルコール、アミン、カルボン酸等と反応する。 水、カルボン酸と反応して二酸化炭素を発生する。
避けるべき物質	火気、高温多湿、長時間の解放。

混触危険物質
危険有害分解生成物

水、アルコール、アミン、カルボン酸
燃焼により二酸化炭素、一酸化炭素、NO_xを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

急性毒性(経口) ラットLD50:10g/kg 区分外(可塑剤)

急性毒性(経皮) データがないため分類できない

急性毒性(吸入:気体、ガス、粉塵、ミスト)
データがないため分類できない

皮膚腐食性・刺激性 ウサギ 0.5ml/72H 刺激性なし。区分外(可塑剤)

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性

EU-RARの記述より、ウサギの目を刺激すると記述があり区分2Bとした。
(可塑剤)

皮膚感作性 データがないため分類できない

呼吸器感作性 データがないため分類できない

生殖細胞変異原性 データがないため分類できない

発がん性 LARC、NTP、OSHAで分類されていない。(可塑剤)

生殖毒性 生殖毒性を認めずの記述より区分外とした。(可塑剤)

特定標的臓器毒性(単回暴露)
データがないため分類できない

特定標的臓器毒性(反復暴露)
データがないため分類できない

吸引性呼吸器有害性 データがないため分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性) 魚、無脊椎動物及び藻類の LC50 > 1000 mg/L から「区分外」とした。

水生環境有害性(慢性) NOEC >1640 mg/L (Blom and Oldersma 1994 P14)Pから「区分外」とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。
内容物を硬化剤と反応させて固形物とし廃棄する。

汚染容器及び包装

関連法規及び地方自治体の基準に従い適切に処分する。
空容器を廃棄する時は、内容物を十分に取り除き、水を満たして2週間以上放置した後、破棄する。この際水を満たした容器は二酸化炭素を発生するので、容器に栓をしてはならない。排水は活性汚泥等の処理をし清浄しないと排出してはならないので、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄委託すること。

14. 輸送上の注意

国連番号 該当しない

国連分類 該当しない

容器等級 該当しない

陸上輸送 消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、該当法律に定められた運送方法に従うこと。

海上輸送 船舶安全法に従うこと。

航空輸送 航空法に従うこと。

輸送の特定の安全対策及び条件

運送に関しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

15. 適用法令

消防法

危険物

第4類第4石油類

労働安全衛生法	第57条の2(通知対象物I)HDI(第519号)
化審法	HDI(第43号)
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	該当しない
輸出貿易管理令	輸出貿易管理令別表第1の16項に挙げる貨物に該当する。輸出の際には、許可申請要件(客観要件、インフォーム要件)に該当する場合は輸出許可が必要になる。

16. その他の情報

本製品安全データシート(SDS)は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、SDS 中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。本製品を推奨用途以外に使用したい場合は、仕様が用途に合致しない場合もありますので事前に弊社に相談してください。

また、当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。更に、本 SDS は、日本国内法規を基準に作成したものです。貴社が、当社該当製品をそのまま、あるいは当社当該製品を配合して、国外に輸出する際には、当該国の法規に適合するかの確認が必要です。

引用文献等

- ・社団法人 日本化学工業協会編 GHS対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針(改訂2版) ラベル表示作成指針
- ・ウレタン原料工業会編「ポリウレタン原料について・安全取扱いの手引き」
- ・国際がん研究機関(IARC発がん性リスク一覧表)
- ・WHO/IPCS:「国際簡潔評価文書(CICAD)」
- ・ドイツ学術振興会(DFGOT)
- ・その他資料